

令和7年度第6回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会（概要）

日時 令和8年2月18日（水）13：30～19：10

場所 かながわ県民センター3階 301会議室

■ 開会

（かながわ県民活動サポートセンター副所長から本日の予定を説明）

- 委員8名での開催
- 会議の流れを説明
- 13時30分～14時30分 プレゼンテーション審査事前確認
- 14時40分～16時35分 令和8年度実施分 ボランティア活動補助金（新規）のプレゼン審査
- 16時45分～18時00分 プレゼン審査に対する選考
- 18時00分～18時15分 令和8年度実施分 協働事業負担金の最終選考
- 18時15分～19時10分 基金21事業等の見直しについて
- 19時10分 閉会

（審査会長より開会の宣言）

- 令和7年度第6回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を開会する。
- 率直な意見交換を通じて公平な審査をする必要があり、神奈川県情報公開条例第25条第1項第1号に該当することから非公開とする。
ただし、プレゼンテーション審査は公開とする。

■ 審議事項1 令和8年度実施分 ボランティア活動補助金事業（新規）の選考

（事務局から以下について説明）

- ボランティア活動補助金（継続・新規）事業分野別申請状況（資料1）
- ボランティア活動補助金（継続・新規）の予算要求額（資料2）
- 審査委員と利害関係のある団体からの申請なし
- 事務局からプレゼン審査対象団体の申請概要及び幹事会での事前調査結果について報告（資料3）

（委員による審議）

- ボランティア活動補助金への申請事業に係るプレゼンテーション審査における確認事項等について検討した。

（プレゼンテーション審査の実施）

- ボランティア活動補助金の申請事業に対するプレゼンテーション審査を次のとおり行った。

【共生型居場所ネットワーク構築事業】

一般社団法人市民連帯経済つながるかながわ（以下、「市民連帯経済つながるかながわ」という。）によるプレゼンテーション実施。

<質疑>

（山田委員）

本事業の核心について、市民の居場所という表現で様々なところで行われているが、それらの事業と本事業の決定的に違うところについてポイントを押さえて教えてほしい。

（市民連帯経済つながるかながわ）

自分たちで事業を行っている団体が多くあるが、会計スキルや事業継続のために必要なスキルを身に付けた団体が多い。専門的なスキルを持った団体が多いことや、5つの地域で活動しているため、強力なネットワーク関係がある点が、サポート体制が初めから築けるというところが大きな強みだと思う。

（山田委員）

成果の明確化をお願いしたいが、具体的に何がどこまで実現していれば成功と考えているか。できれば数値的なものと合わせて教えてほしい。

（市民連帯経済つながるかながわ）

居場所活動をやっている団体は会員の中に複数あると思うが把握していないので、まずは把握することが必要である。一つの指標は居場所活動がどの程度関連団体で行われていて、どの程度地域で行われているかを把握する。そのあと連絡会を通して、どれくらいの新規団体が活動を進められていたか、どれくらい関係性が構築できたのかなど、報告書をまとめ、どのような効果があったのかを指標化していくことが1つの指標になると思っている。

（山田委員）

ワーカーズコレクティブとのことだが、これを中心にする枠組みなのか、地域に開かれた公共的なものにするのか、どちらを目指しているか教えてほしい。

（市民連帯経済つながるかながわ）

公共的なものである。ワーカーズコレクティブとは民主的な働き方の推進をしていくもの。全員が参加してどのような人でも経営に参加していくという主体の働き方のモデルなので、もともと公共的な取組として行ってきた。今後も働き方の推進もあるが、居場所が大きなテーマなので、その視点からどのように運営していくかについては、ワーカーズコレクティブにこだわらず検討していきたい。

（山田委員）

ネットワークを実際に動かしている中心の人材は誰になるのか。どのような専門性や役

割を担っているのか教えてほしい。

(市民連帯経済つながるかながわ)

5つの地域で街づくり会議、地域ワーカーズコレクティブ連携会議が2回開催されているが、事務局を担うワーカーズコレクティブがあり、非営利活動の推進をサポートする体制が構築されている。

労働者協同組合の推進の専門性は高く、事業の立ち上げや伴走などについても数多く経験している。1980年代から活動は続いており、伴走で関わってきた人たちが専門性をもって携わっている。

(山田委員)

補助金終了後の財政面の展望について教えてほしい。

(市民連帯経済つながるかながわ)

もともとワーカーズコレクティブの連合組織が昨年まであったが、解散して、非営利民事業という枠組みで自分たちが立ち上がった。運営体制として主な収入源が会費である。各団体が会費を募り、みんなで出し合って地域を作っていこうと賛同をいただいている。そのほかにも基金を行っており、市民参加の寄付を受け付けたり、そういったモデルも構築しつつ、会費と寄付を中心として継続的に活動していきたい。

(中島会長)

先ほどの説明の中で、開かれた組織とのことだが、それぞれの地域で参加者として想定している方は既にネットワーク活動をしてきた方も募るということでよいか。

(市民連帯経済つながるかながわ)

就労支援をやっている団体とも統合予定。そういった意味で、それ以外にも未来機構やさまざまなネットワークがあるので、連携を通じ、ネットワークを生かして関係性を広めていきたい。

(中島会長)

色々な地域で既存のネットワークがあると思うが、その人たちとの関係はどのように考えているか。

(市民連帯経済つながるかながわ)

地域で居場所活動を行っている団体とのネットワークを見つけることができるので、そこに打診し協力関係を作っていきたい。

(中島会長)

団体の強みとして事業性、明るいスキルを持っている人が多い、ノウハウを生かせるもあったが、団体は事業性を追及しているところ、ないところとあるが、貴団体は自分達の

強みを生かせるところを対象としていくのかどうか教えてほしい。

(市民連帯経済つながるかながわ)

これまで事業性のないところはアソシエーションという形でやってきた。アソシエーションとワーカーズコレクティブの狭間については、徐々になくなってきている。NPOと一般事業というものの違いが曖昧になってきていると思うが、事業性のない団体にも基金で助成を行っているので積極的にサポートしていくことでネットワークもできてくる。

(中島会長)

会員が多くいるという話だったが、補助金で取り組んだ方には会員になることを期待しているか。

(市民連帯経済つながるかながわ)

会員向けの講座はあるので声掛けをする可能性はあるが、それとはまた別の取組と思っているので、特別声掛けをする予定はない。

(中島会長)

成果について、10~20団体の参加を見込んでいるが、数のその先、参加した団体の活動によって、地域でどのようなことを期待しているか。

(市民連帯経済つながるかながわ)

一人だけ居場所活動を始めてみたい方もいるので、そのような方もネットワークの中でみんなも一緒にやっているのだという想いが生まれる地域の推進になればいいと思う。

(中島会長)

これが解決策であるという考えか。あらゆる選択肢の一つか。

(市民連帯経済つながるかながわ)

選択肢の一つである。

【CANTONEA ~ひとりじゃない 響き合う音と心~】

一般社団法人乳がん予防医学推進協会による（以下、「乳がん予防医学推進協会」という。）プレゼンテーション実施。

<質疑>

(為崎委員)

この事業の位置付けについて、聞きたい。貴団体は令和6年度まで協働負担金事業を行っており、がんの予防を目指し検診しやすい環境を整えるということをしてきたが、今

回全く違うアプローチとなっている。転換理由や協働負担金事業との関係を教えてほしい。

(乳がん予防医学推進協会)

本プレゼンに自身のバイオリンの先生に同席してもらっているが、音楽で社会貢献をできないかと話している中でこの発想が生まれた。令和4～6年度の協働事業で検診率向上事業をさせていただいたが、3年間で参加してくださる受診者も増え、検診に行くべきだという気持ちも芽生えたことが確認できた。自分のことに興味を持つことが大事だという意識付けはすごくできたと思う。

継続していくうえで、どうしたら検診や、自分たちの体にもっと興味を持ってもらえるかと考えたときに、実際にがんにかかった方に話を聞いた。同じ立場になった人たちと話をしてみたい方や、患者の会などでは何を話していいかわからない方、生活の場で子育てや介護が大変で会などに行けないという方もいた中で、気兼ねなく来れる場所を一つでも二つでも作ることは大切だと思う。

(為崎委員)

演奏会のタイトルなどに「がん」といった言葉を掲げると、健康意識の低い人の来場には結び付きにくくなるのではないかと。演奏会の開催を通じて、そうした人達をどうがん検診につなげるのか。今回提案されている演奏会は、以前から目指していた団体の本来目的である検診率向上、がん予防にどう結びついていくのか。

(乳がん予防医学推進協会)

興味がない方々に伝播させるのはとても難しい課題として残っているが、そうした人達の周りの方が演奏会に関わることがある。友達が演奏しているというだけでも行くきっかけのひとつにもなる。子どもも社会貢献として参加してもらおうので、一緒に来る親や友達にも波及すると考える。

(為崎委員)

プレゼンを聞いていると、今回の提案事業のメイン層はがん患者とその家族の層かと思う。今回の事業の中心はどちらかと言えば、そのような層であり、がん患者のコミュニティを作るのが主目的か。

(乳がん予防医学推進協会)

コミュニティを作ることも大きな目的だが、地域の自治体、学校にもプロジェクトの周知を行うため、そうした人達の周囲に周知もできると思う。

(為崎委員)

行動変容の追跡調査をすることだが、どのように追跡調査し、次に繋げるのか。

(乳がん予防医学推進協会)

演奏会の時にアンケートを配る予定だが強制ではない。実際にがんになった方や家族の

方、がんに関心のある方それぞれに考えなどを伺うコミュニケーションシステムを導入する。

(為崎委員)

音楽会をやり、がん患者の方の参加を呼び込むことは大切だと思うが、一定程度の大きなお金をかけて専門的な音楽団体と連携をすることの必要性や重要性は何か。あまり費用をかけずに手作りの参加型の演奏会をやる方法もあるかと思うが、費用をかけ専門的にやることの意味を教えてください。

(乳がん予防医学推進協会)

小さいものを考えているとそこで留まってしまう。我々が考えるのは、小さな小ホールから大ホールに大きくしていきたいという願望もある。

理由は、同じ方々だけで集まって満足するもので終わりたくはない。同じようにがん患者に向けたイベントとしてチャリティーマラソンなどやっている団体は多いが、色々な方が垣根を越えて取り組まないと解決しないと考えている。

(山田委員)

今話を聞いていると、専門家に演奏してもらい、大きな一般的なつながりを持ち込みたいということだと思う。しかし、聴く側と演奏する側で分かれてしまうと思うが、どのような関連性を期待しているのか。

(乳がん予防医学推進協会)

聴く側は、同じがん患者、家族が演奏することによって、そのこと自体に共感を覚えると思う。実際に音楽を聴くことは人の心を豊かにする。

(山田委員)

今年度どのようなことが達成できれば本事業が成功すると思うか。

(乳がん予防医学推進協会)

自治体の相談センターを活用してもらうこと、医療従事者も痛みを理解できるような交流の場を作っていけたらと思う。

(山田委員)

数値的な目標はあるか。

(乳がん予防医学推進協会)

小ホールが300人で大ホールが2,000人規模なので、たくさんの方々に参加してもらいたい。小ホールで演奏していただく方々は、キャパの問題で15名程度である。大ホールでは、多くの関係者の方に演奏してもらい、いろんな方に参加してもらいたい。

(山田委員)

補助金終了後、財政面について本事業をどのように継続していくのか教えてほしい。

(乳がん予防医学推進協会)

実際に予算書にも提示したが、事業収入は1人2,000円。演者からもチャリティとして寄付をいただく予定で賄っていけると思う。あとはコミュニティの方で寄付などを検討している。

(為崎委員)

演奏会に来られないような方達にも支援を行き届かせたいということだと思うが、年に1回だけの演奏会の成果を県域に波及させる予定があるか。

(乳がん予防医学推進協会)

広報を予定しており、SNSや練習の様子をビデオレターで残したり、演奏会をYouTubeで上げたりすることも考えている。

【妊産婦と子育て世代の支援を行う助産師活動に関する広報活動】

湘南助産師会（以下、「湘南助産師会」という。）によるプレゼンテーション実施。

<質疑>

(高村委員)

事業1の広報について、リーフレットを作成して行うとあるが、5万部にした根拠や、どこに配布したいか教えてほしい。

(湘南助産師会)

現在、藤沢市の新生児訪問では全戸配布している。他の市町村でも新生児訪問時に増刷し配布していきたいと思っている。

(高村委員)

事業2の相談事業については、相談員10名とあるが、既に始まっている事業の計画か。

(湘南助産師会)

今後増やしていきたいという気持ちがあるが、現メンバーが無償でやっており、このまま続けていくのは難しいと思う。

人件費が発生したら順番に回していけるかと考えている。

(高村委員)

3年間同じ予算になっているが、同じ人数で同じ予算でやっていくということか。

(湘南助産師会)

今後、需要を見て検討していく予定。

(高村委員)

リーフレットを配布するとニーズが増えていくことと、相談事業との関係性を教えてほしい。

(湘南助産師会)

HPとリーフレットを充実させ情報発信をしたことで、活動に対する問い合わせが増えてきている。専門的な助産師が関わって時間をかける相談もあるので、人件費も発生させ事業を充実させていかないと継続できないと考え2本立てにした。

(高村委員)

補助金に採択されなかった場合の他の助成金への申請や、団体も始まって長くはないので、団体の活動基盤の整備に取り組む予定はあるか。

(湘南助産師会)

実績を積み重ねることで信頼が得られるため、行政の助成金を依頼したり、企業の協力を得たりなども検討している。今年度はこれから並行して取り組む。

(尹委員)

相談事業は広報することで増えるだろうとのことで、現状でも大変で続けていくのは難しい。人件費が出ればよいということだが、相談事業についての補助金の申請は人件費を担保したいからという理由か。

(湘南助産師会)

ざっくりいうとそういった感じである。

(尹委員)

補助金自体は、事業自体を後押しするものなので、人件費のためだと本来の枠組みと外れてしまうと思った。

HPとリーフレットを充実させたいということだが、HPの充実とリーフレットの部数を増やすだけでは、本当に届けたい層に届けることは難しい。

一般的な子育て相談は広く色々なところでやっているが、助産師だからこそできる相談事業もある中で、そこにたどり着けない人たちにこそ手を届かせてほしい対象だと考える。そのような人たちがHPとリーフレットを充実させることでどの程度届くと考えているか。

(湘南助産師会)

新生児訪問時にリーフレットを渡してもらうことは効果があると思う。助産院としてHP

を開設してもHPにはたどり着かない人は多い。そのため「湘南助産師会」という大きなところに電話してみよう、相談してみようという相談は多いので、自分たちがそれを広めている。名前を広めることでどこに相談したらいいかわからない人たちに届けばと思う。

(尹委員)

補助金に採択された場合、助産師への人件費は担保されるが、補助金が終了した先はどのように考えているか。

(湘南助産師会)

補助金以外の行政や企業の力を借りられるように実績を重ねていきたい。

(尹委員)

現時点で企業の協賛を募るなどの検討を行っているか。

(湘南助産師会)

始まったばかりなので、活動基盤が整ったところで、アピールポイントを揃えて企業に話をしていけたと思う。

(尹委員)

子育てをしている人たちからの相談は永続的に無料で行っていくのか。人件費が出せないことは無償で受けているからと解釈している。

相談する側からお金を受け取るという整備は、長く続けるのであれば必要と考える。その点が整備されないと事業自体がどこかで行き詰まると思う。

(湘南助産師会)

困り果てて疲れ果てている人たちがお金を使って相談しようとはなかなかならない。そうではなく社会で支えたいという気持ちが強いので、有料の相談は検討していない。

(尹委員)

助産師だからこそできるという事業はどういったことか。

(湘南助産師会)

女性の生涯を通して伴走するというスタンスで仕事をしているので、その点が専門性かと思う。母乳育児については病院では関わりきれないため、そのような点も丁寧に関わっていきたい。

(中島会長)

相談事業以外も無償でやっているのか。

(湘南助産師会)

ベビーマッサージ講習については材料費もあるため、1人1,000円もらっている。

(中島会長)

藤沢市とはつながりがあるとのことだが、他地域への働きかけはしているのか。

(湘南助産師会)

茅ヶ崎、寒川の行政には話をしているが、団体として日が浅いので、実績不足からリーフレットを受け入れられてもらえないことが多い。

(為崎委員)

補助金は上限100万円まで申請できるが、もう少し大きな額をかけて情報の部分をテコ入れするなどの検討はなかったのか。

(湘南助産師会)

自己資金が1人3,000円の会費収入だけなので、あまり金額を上げられなかった。

会費を上げるための会員に還元できるレベルの活動をするには、人件費も必要なので、基盤を整えたいという意図もあり申請した。

【学校へ通いづらさを抱えている子の学習を含めた進路選択支援と個別療育事業】

ゆりゆりルーム（以下、「ゆりゆりルーム」という。）によるプレゼンテーション実施。

<質疑>

(田中委員)

事業2年目以降の収支予算書において、収入が増えていると思うが、小田原市で助成制度が始まり、フリースクール等に通うご家庭への支援が始まることで、そのお金が利用料金として見込めると思うが、その可能性はどれくらい確かなのか。

小田原市からの助成が家庭に入った場合に、他のことに使われる場合もあると思うが、こちらの利用料として使われることなどはあるのか。

(ゆりゆりルーム)

小田原市は検討をしているとのこと。議員からは、来年度からフリースクールに通う家庭に助成が出ると聞いているが、確実とは言えないようである。

今は、「お気持ち募金」という形で、ほぼ無償で対応しているが、フリースクール助成が出るのであれば、月に1万円程度集めようと思っている。

(田中委員)

フリースクール助成は、フリースクールへの利用と用途が決められているのか。

(ゆりゆりルーム)

市でフリースクール連絡会が立ち上げられ、ゆりゆりルームも参加している。フリースクールに通うガイドラインもでき、その中の一つとして挙がっているので、助成対象となると思う。

(田中委員)

基本的には団体が個別に支援をするとのことで、小田原市との連携の形が強いと思うが、今回県の補助金に申請された理由は何か。県へ還元できることがあれば教えてほしい。

(ゆりゆりルーム)

小田原市とは教育委員会とやりとりしているが、県西部の各教育委員会で回り普及活動を行おうと思っている。その中で学習支援も取り入れていければと思う。

(田中委員)

モデル化という言葉が事業計画の中で使われているが、個別支援についてモデル化はできるのか。

(ゆりゆりルーム)

発達が気になる子は、色々な特性を持っていて、それに合わせた個別の支援が必要になる。その点を当団体が実際にお子さんとのやり取りの中で、ある程度確立した支援の方法をお示しできればと思う。

(田中委員)

その子についての状況を様々なところに共有できるということと理解した。

事業の成果について、子どもが自信を取り戻すこと、困り感が軽減されるという定性的な表現が書かれているが、進学率、復学率など、定量的な指標があるとしたらどのようなものか。

(ゆりゆりルーム)

復学できることも1つだと思いうし、少し先を見て、社会に適応できるようになれるかを追っていきたいと思っている。

(田中委員)

利用された後の様子も追いかけていくと理解した。

(松村委員)

3年間の事業で、年度ごとの予算の振れ幅が大きい。例えば人件費についても、事業1と事業2で1年目は事業1が多いが、2年目は事業2が多い意図を教えてください。

(ゆりゆりルーム)

開設して1年半経過したが利用者が増えない課題がある。学習支援を入れても急に人が増えるとは考えにくいので、1年目は低予算で検討した。2年目からは実績が認められ広がれば人が増えると考えて予算を立てた。

(松村委員)

現在は週一回の活動か。

(ゆりゆりルーム)

ハンドメイド品づくりを含めると週2回。

(松村委員)

2年目は常設の拠点を開設するとのことだが、開設した時の運営のイメージはどういうものか。

(ゆりゆりルーム)

週3回以上は開くイメージだが、スタッフがいてこそ開ける場なので、兼ね合いを考えながら拠点を持つことを考えている。

(松村委員)

運営の見通しははっきりしているわけではないということか。

(ゆりゆりルーム)

拠点は大きなものなので、利用者とスタッフの動向を見ながら見通しを立てていく。

(松村委員)

運営体制について、大学との連携の話もあったが、学生を中心にアルバイトで回していくイメージか。

(ゆりゆりルーム)

スタッフが1人2人いる中で、学生にはサポートとして入ってもらおう。

(松村委員)

常設にするのであればスタッフも増やしていくのか。

(ゆりゆりルーム)

そうである。

(松村委員)

クラウドファンディングは何を目指しているのか。

(ゆりゆりルーム)

常設拠点の開設を目的としている。

(松村委員)

フリースクールは他にもあるが、高額なものが多い。小田原市がフリースクールに通う家庭に対してお金を出すというと、逆に言うと高くても通えるという話にもなってくると思う。安く提供している場所との差別化も必要になってくるのではないかな。

(ゆりゆりルーム)

自身の思いだが、経済格差によって、裕福層の家庭は行き場はあるが、低所得者に行く場はないというのはおかしいと思うので、そのような方を拾いたいと思っている。

ケアラーカフェの人たちとも来年度イベントを企画する予定であり、ヤングケアラーの子ども、シングル家庭の子どもを受け入れたい。

(松村委員)

クラウドファンディング等、どのように持続的な運営をしていくのか。

(ゆりゆりルーム)

悩んでいる点である。ハンドメイド品作りも収益で運営するのは難しい。今は助成金頼みであり、小田原市のフリースクール助成ができれば運営できるかというところ。

(田中委員)

予算書に記載の人員費だが、これまでも働いてきたスタッフへの費用か。それとも新たな雇用する費用か。

(ゆりゆりルーム)

スタッフには現在、1時間500円と交通費を出している。学習支援となったら責任も出てくるので、1,300円で計上した。その中に学生ボランティアも含まれる。

(田中委員)

補助金終了後も金額を変えずやっていくのか。

(ゆりゆりルーム)

今後検討していく。

【在日外国人との共生「現場」から学ぶセミナー】

特定非営利活動法人在日外国人教育生活相談センター・信愛塾（以下、「信愛塾」という。）によるプレゼンテーション実施。

<質疑>

（山岡委員）

今回セミナー事業として提案いただいているが、どのような方が参加するのか具体的に教えてほしい。

年6回の連続講座ということで、それなりの思いをもっている方でないとすべて参加するのは難しいのではないかと想像するので、具体的に想定されている方、呼びかけ方法について教えてほしい。

（信愛塾）

対象は外国人の問題を抱えている方。地域社会において色々な問題を抱えている方が参加するのがベストだと考えている。

学校や地域社会で介護や福祉の現場などもあるが、そのような現場で問題を抱えている方の声も聴く。企業がどれくらい出てくるのかわからないが、企業で労働者として外国籍の人を雇っている場合、どうしたらいいかわからないという状況もある。

HPやニュースレターでもお知らせをするが、ちらしを作成して関係箇所に配ろうと思っている。地域が中心にならざるを得ないので、地域中心になるかもしれない。

（山岡委員）

ライフステージの中で抱える困りごとについては相当幅が広いと思う。年に6回のセミナーで現場に行ったとしても、すべての困りごとを網羅できないと思うが、どのように考えるか。

（信愛塾）

プレゼンで示したのは、保育や教育、医療や介護、地域コミュニティを大きく考えている。実際に県内だけではなく、他の地域でも同様の取組をしているところもあるため、先進的に起こっている問題について学び、対応していきたい。

（山岡委員）

実際に現場に行くのは、その中の数か所ということか。

（信愛塾）

当団体は南区にあるが、南区と中区の接点で、外国人の問題を抱えているところは多いので、簡単に尋ねることはできると思う。

（山岡委員）

セミナーの中であらゆる問題を網羅するのは難しいのではないか。

(信愛塾)

一気に全てできるとは思っておらず、3年間の中で探りながらやっていく。

(山岡委員)

セミナー受講者が10名で決して多くはない。外国人との共生の問題の解消を目指すのであれば、受けた方が地域の中でどのような活動をしていくのが重要になると思うが、そのフォロー、サポートなどは行うのか。

(信愛塾)

セミナーで力をつけることにはなると思う。10人だけを対象としているということよりも、広く地域社会に発信していくためにはブックレットなどが大事だと思うので、最終的な目標はブックレットの作成である。

外国人との共生について大きな問題となっているが、放置していくと排外主義につながっていく。そうならないために具体的な問題を取りあげて、発信していきたい。

(山岡委員)

セミナーを受けた方との継続的なやりとりはないのか。

(信愛塾)

関係はできてくると思うが、特に検討していない。

(高村委員)

最終的な目標がブックレットの作成ということで、3年目を予定しているが、その計画について、どのように活用するか、配布先や部数のイメージがあれば教えてほしい。

(信愛塾)

広く遠くの方にこの問題を知ってもらおう。特定の地域だけでなく、多くの人に知ってもらうため、出版社に声をかけたりすることも検討している。

(高村委員)

1回のセミナーはどれくらいの時間をかけるのか。3年間で同じ10名ではなくて人が入れ替わりながらトータル30名が受講するのか。

(信愛塾)

いろいろな人に関わっていただくことはあるが、このセミナーを継続するためには一定の人数が必要なため、その兼ね合いはあると思う。

(高村委員)

セミナーの内容は調査研究も含めて冊子を一緒に作る仲間になるか。

(信愛塾)

講師として地域の中でも行政書士をしている人や外国人の問題を扱っている人がいるので、色々な話を聞いていきたい。

コーディネーターの指導を受けながら、セミナーで議論した内容をブックレットにまとめていければと思う。

(高村委員)

予算について、チラシ作成費用の計上があるが、初年度募集する10名に17万かけるのはなぜか。根拠を教えてください。

(信愛塾)

デザインと印刷で17万円である。デザインは自身も知らなかったが、プロでやっている方がおり、ちらし1つにしてもお金が大きくかかることがわかったのでこの金額にしている。参加者10名でも妥当な金額だと考える。

(高村委員)

支出について、電話代、光熱費等の固定費も計上されているが、根拠について教えてください。

(信愛塾)

光熱費も、事務所の場所を使うときや事務作業でも使うので計上した。事業を行う中で必要な分を按分している。

(高村委員)

このような講座は自主事業もやっていると思うが、それとの違いを教えてください。

(信愛塾)

一つは横浜市から委託された成人教育講座である。当講座は地域の人に問題を考えてもらうということでそこは異なる。

(委員による審議)

- ボランティア活動補助金事業(新規)の申請事業に係る公開プレゼンテーション審査の結果を踏まえて審議を行い、事業を選考した。
- ※ 選考結果は後日団体に通知。

■ **審議事項2 令和8年度実施分 協働事業負担金の対象事業(継続・新規)の最終選考**
(事務局から令和8年度実施分協働事業負担金協議結果について説明(資料4))

- 県協働部署との協議結果を受け、来年度実施する事業を選考した。

■ **審議事項3 基金21事業の見直しについて**

- 基金21事業の見直しについて、審査会の意見を聴取した。(資料5)

■ **閉会**

(審査会長より閉会の宣言)

- 令和7年度第6回神奈川県ボランティア活動推進基金審査会を閉会する。

(以上)